

2009●図書館展示 4 月

2009 年 4 月 6 日～ 5 月 1 日



ムソルグスキー

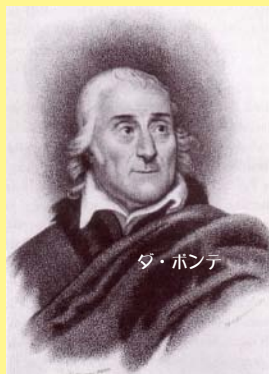


ラヴェル

展覧会の絵とフィガロの結婚

2009年度基礎ゼミコンサート

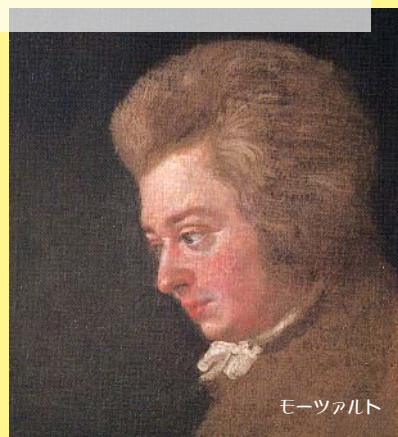
「いま始まる!華麗なる音楽の響き」 参考資料展



タ・ボンテ



ボーマルシェ



モーツァルト

企画●市川利次（国立音楽大学附属図書館閲覧参考部）

場所●図書館ブラウジングルーム・AV 資料室

《展覧会の絵》と《フィガロの結婚》

2009年度基礎ゼミコンサート

「いま始まる！華麗なる音楽の響き」参考資料展

今年度のレクチャーコンサート「いま始まる！華麗なる音楽の響き」では、ムソルグスキー作曲、《展覧会の絵》とモーツァルト作曲、歌劇《フィガロの結婚》第4幕が演奏されます。

図書館では、両曲に関する興味深い資料を楽譜、CD、映像資料、図書の中から選んで展示する事にいたしました。

コンサートで「華麗なる音楽の響き」を堪能されたあとは、図書館で参考資料展を眺めたり、様々な資料を利用したりして、響きの余韻を楽しまれてはいかがでしょうか？

展覧会の絵	2
フィガロの結婚	6

企画 市川利次（国立音楽大学附属図書館閲覧参考部）

展覧会の絵

ムソルグスキー

Kartinki s vystavki

Mussorgsky, Modest Petrovich, 1839-1881

《展覧会の絵》参考資料について

急逝した友人、建築家・ガルトマン(又はハルトマン)の回顧展を見たムソルグスキー(1839-1881)は、1874年、《展覧会の絵》を書き上げます。作曲者の死後5年を経た1886年、《展覧会の絵》は、遺稿の整理に当たっていたリムスキー＝コルサコフの校訂により出版されます。その後、多くの補筆や改訂、編曲が出されますが、1922年、ラヴェル編曲管弦楽版、初演の大成功により、作品自体への関心も一層高まります。管弦楽への編曲は、その後も指揮者のストコフスキーをはじめ多くの作曲家、演奏家により試みられて行きますが、ピアノ版の出版や演奏は、ムソルグスキー全集や自筆譜版の出版により、ムソルグスキーの原典を追求する姿勢が強まります。一方、管弦楽以外の編曲も、ロック版、シンセサイザー版、ギター版、ブラスアンサンブル版、合唱版等と、実に多様な編成へと広がって行き、今や《展覧会の絵》は、時代・ジャンルを超えて、後進の音楽家を魅了し、触発して止まない作品の一つとなっています。

こうした《展覧会の絵》のピアノ版や編曲版及び関係資料について、当館では、楽譜、録音資料、映像資料、図書、逐次刊行物(雑誌、紀要等)として長年収集、蓄積して参りました。そうした所蔵資料の極一部ですが、今回展示する事といたします。

この機会に、展示以外の資料も利用して、各版の味わいの違いや演奏家の表現の違いを体感し、更には、作品解説や成立事情等を探り、深く係わった人々(作曲家、画家、編曲者、研究者、演奏者等)の想いに触れる資料上の旅を楽しんではいかがでしょうか？

展示資料

自筆譜ファクシミリ版とガルトマンの絵のカラー写真

T1 "Kartinki s vystavki : dlia fortepiano"

Moskva : Muzyka, 1982 請求記号 G18-140f、他

モスクワのムジカ社(Muzyka)1982年発行のファクシミリ版。レニングラード国立公共 M. J. サルティコフ・シェッシュドリノ図書館に保管されている自筆譜からのファクシミリ 第5曲:殻をつけたひなのバレエ 第6曲:ザムエル・ゴールドデンベルクとシュムイレ 第8曲:カタコンベ(ローマの墓地) 第9曲:にわたりの足の上に立つ小屋(バーバ・ヤガー) 第10曲:ボガトゥイーリの門(首都キエフにある)

に関連する6枚(5曲分、第6曲に関する絵が2枚)のガルトマンの絵のカラー写真付き
通常、"Pictures at an exhibition"と表記される英訳タイトルについて、"Pictures from an exhibition"とはっきりと表記されている点を当館所蔵ファクシミリ版から確認できる。

(T15中の"組曲そのもののタイトルについて"参照)

全集・叢書楽譜との関連をもつ楽譜

T2a "Kartinki s vystavki" Sämtliche Werke. Hrsg. von Paul Lamm

New York : Edwin F.Kalmus, 1969 請求記号 A18-437

ラム(Paul Lamm 又は Pavel Lamm)編集による《ムソルグスキー全集》のリプリント版、カーマス社(Edwin F.Kalmus)、1969年発行。"展覧会の絵"を収載する全集の巻(第8巻第2分冊)の出版は1931年。"1.小人"他、曲によっては、自筆譜からの重要情報(ロシア語、フランス語、引用譜例がつく場合もある)が示されている。

**T2b "Pictures at an exhibition and other works for piano"
edited by Pavel Lamm for the Complete works edition**

New York : Dover, c1990 請求記号 G22-843

(ムソルグスキー全集)を基にした1939年の版のリプリント版、ドーヴァー社(Dover)、1990年発行。編集はラム(Pavel Lamm)。(子供のころの思い出)等のピアノ曲と共に収載されている。“1.小人”他、曲によっては、自筆譜からの重要情報(英語、引用譜例がつく場合もある)が示されている。

T3 『展覧会の絵 ヴィクトル・ガルトマンの思い出』

東京 : 音楽之友社, 1993 (新編 世界音楽全集 器楽編 48 ロシア・ピアノ曲集) 請求記号 A10-302

この版は、1988年にモスクワのムジカ社(muzyka)から出版された(ロシア・ピアノ音楽第4巻)に拠っている。

自筆譜との関連をうたっている実用楽譜

T4 『展覧会の絵 : ヴィクトル・ハルトマンの思い出』

マンフレート・シャンデルト, 自筆譜にもとづき, 校訂 ;

ウラディミール・アシュケナージ, 演奏に対する助言および運指法

Wien : Wiener Urtext Edition, c1984 ; 東京 : 音楽之友社 (ウィーン原典版 ; 76) 請求記号 G30-327, 他

この楽譜の出版にあたり、A.P.ソリナとエミリア・L. フリード校訂で、1975年、モスクワのムジカ社(Muzyka)から発行された自筆譜のファクシミリ版を使用したとの記載が“注解”に見られる。ガルトマン(ハルトマン)の絵の写真付き

T5 "Bilder einer Ausstellung"

nach dem Autograph herausgegeben von Petra Weber-Bockholdt ;
Fingersatz von Klaus Schilde

München : G. Henle, c1992 請求記号 G24-309, 他

自筆譜によるペトラ・ウェバー-ボックホルト編 クラウス・シルデ運指法によるヘンレ社(G. Henle)、1992年発行の版。

T6 『展覧会の絵 : 全曲集』 鈴木静哉編著

Tokyo : Doremi Music Publishing, 1990 (Doremi Klavier Album ; no. 1054) 請求記号 G22-794

編著者は「自筆ファクシミリを参照した」と“はじめに”に記載

リムスキー = コルサコフ校訂の楽譜

(原典とは違う系譜をもつものとして、現在区別されており、その場合リムスキー = コルサコフ版と呼ばれる事が多い。)

T7 "Bilder einer Ausstellung : für Klavier"

redigiert von Nikolaj Rimskij-Korsakow ; mit Farbreproduktionen
aller erhaltenen Bilder von Victor Alexandrowitsch Hartmann

Wiesbaden : Breitkopf & Härtel, c1983 請求記号 G18-139

1886年、リムスキー = コルサコフ校訂版は、W. ベッセル社より出版された。後に第2版が出版されるが、両版ともリムスキー = コルサコフの訂正を受けている。今回展示する楽譜はその系譜に属する Breitkopf & Härtel 社、1983年発行の楽譜。ガルトマンの絵のカラー写真付き

ラヴェル編曲管弦楽曲版の楽譜

T8 "Tableaux d'une exposition" orchestrated by Maurice Ravel

London ; New York : Boosey & Hawkes, c1929, Pl. no. B. & H. 8729 請求記号 E5-835、他

1922年、ラヴェルは指揮者クーセヴィツキーの依頼で管弦楽用に編曲を行うが、自筆譜が入手できなかったラヴェルはリムスキー＝コルサコフ版を基に編曲作業を行ったと伝えられる。同年、クーセヴィツキー指揮のボストン交響楽団で初演されると、各楽器の特色を生かした豊かな色彩感と華麗なオーケストラの響きで、管弦楽編曲版は大反響を呼ぶ。今回展示する楽譜は、1922年のものではなく、その系譜に属する Boosey & Hawkes 社、1929年発行のもの

ちょっと変わった編曲（企画）

合唱版の楽譜

T9 “ 展覧会の絵 ; 少年少女（女声）合唱組曲 ” 甲田潤編曲 ; 日野秀夫作詞

東京 : 全音楽譜出版社, 1999 請求記号 F21-324

声域的に限界のある少年少女(女声)の合唱版を“展覧会の絵”で作ろうという企画と新たに歌詞をつけようという発想が冒険的でユニーク。ガルトマンの絵の白黒写真付き

ロックヴァージョンのレーザーディスク

T10 “ 展覧会の絵 ” エマーソン, レイク & パーマー (EL&P)

[東京] : 発売元: パップ, [1990] 請求記号 VD3738

EL&P 黄金期の 1970 年代のライブ収録に映像効果が施されたレーザーディスク。「クラシックのロック・アレンジ」及びプログレッシヴロックの金字塔。3人の最小ユニットから溢れんばかりのエネルギーがほとばしり、当時は大変な人気であった。又、様々なアレンジが一挙にでてくるキッカケをつくったとも言われている。

音楽の旅が楽しめる DVD

T11 “ Pictures at an exhibition ”

DVD International, c2000 請求記号 VE1120

ラヴェルの管弦楽編曲による“展覧会の絵”を、ナザレス指揮のスロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団の演奏で聴きながら巡るロシア各地(ロシア美術館, ピョートル宮殿, シナゴーク, スモリーヌイ墓地, モスクワ, キエフ他)の旅。ナクソス DVD「音楽の旅」シリーズの一作。ロシアやムソルグスキーの音楽が身近に感じられる。

アニメの DVD

T12 “ 手塚治虫 実験アニメーション作品集 ”

[東京] : ジェネオン エンタテインメント, 2007 請求記号 VE1745

同上作品集の第6作品として、音楽詩「展覧会の絵」(1966年)が収録されている。音楽を富田勲が担当する、手塚治虫の才気と風刺が光る大変楽しい意欲作。製作の裏話が、「手塚治虫クラシック音楽館」(手塚治虫, 小林準治著, 平凡社, 2008 請求記号 J114-566)のp144~147に掲載されているので、興味のある方は是非ご一読ください。

図書

T13 『ムソルグスキー : その作品と生涯』 アビゾワ著 ; 伊集院俊隆訳

東京 : 新読書社, 1993 請求記号 C58-127

(展覧会の絵)についての章も収載する、作品と生涯について書かれた本。全体像を知るのに便利。豊富な写真と随所に配されたムソルグスキーの書簡は想像力を掻き立て読書の手助けとなる。巻頭には、「人生は、生きるために与えられるが、芸術はただ闘争のなかでだけで生き、かつ成長する」というムソルグスキーの言葉を掲げている。

T14 『追跡ムソルグスキー「展覧会の絵」』 団伊玖磨, 近藤史人著

東京：日本放送出版協会, 1992 請求記号 C55-702, 他

(展覧会の絵)のモチーフとなったガルトマン(ハルトマン)の絵の謎を追った番組を基に出版した本。ドキュメンタリータッチの文章に多くの写真を配して、読者を臨場感溢れる謎解きの世界に誘う。大変おもしろい本ではあるが、学問的には問題があるとの批判もある。(参照T15p39“絵の所在”)

T15 『ムソルグスキー：「展覧会の絵」の真実』 一柳富美子〔著〕

東京：東洋書店, 2007 (ユーラシア・ブックレット ; no. 115) 請求記号 J112-231

小冊子タイプなので読み易いが指摘は鋭く深い。例えば、「<ザムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ>は一時<2人のユダヤ人 金持ちと貧乏人>と呼ばれていた時期があった。だが、これはムソルグスキーが付けたタイトルではない。...ちなみにラム版(T2 参照)はこの他にも学術的に疑問とされる部分が多く、引用する際には注意が必要だ。」「...ロシアの専門家達は、元絵を判断する材料としては、...展覧会のカタログを最重要視すべきだという立場で一貫しており、カタログと完全に内容が一致している絵6点(5曲分)が厳選されて、そのコピーは自筆譜ファクシミリに添付されている。(T1 参照)....」...というように、作品や絵にまつわる従来イメージの訂正を求められているような、核心を突く指摘が多い。

T16 『クラシック CD 異稿・編曲のよろこび』 近藤健児〔ほか〕著

東京：青弓社, 2007 請求記号 J112-095

特に、“第3章ムソルグスキー(田畑休八)1.組曲「展覧会の絵」の図1.「展覧会の絵」の編曲の流れ。”は、主要編曲の流れが一目でわかり、更に、ピアノ譜と他の楽器や管弦楽曲への編曲が区別できるようになっていて、大変便利

展示パネル

ムソルグスキー(1839.3.21~1881.3.28)の肖像画(1881年製作)

絵の代金で葬儀資金を賄おうと考えたレービン(晩年親しくしていた画家)により、入院中のムソルグスキーをモデルに、3月14日~3月17日にかけて製作された鬼気せまる肖像画

(“M.P. Musorgskii” p. 101 / 請求記号 C48-176)

ガルトマン(1834~1873)の写真

スターツフ(美術批評家)は「彼は、現代の建築家全員のうち最も才能ある、最も独創性のある、最も企業心に富もう、最も勇敢な人...」と評した。

(「追跡ムソルグスキー「展覧会の絵」」p. 61 / 請求記号 C55-702)

ガルトマンの回顧展が開かれた美術アカデミー

(「追跡ムソルグスキー「展覧会の絵」」p. 63 / 請求記号 C55-702)

第5曲：殻をつけたひなのバレエ

(モスクワ、ムジカ社(Muzyka)1982年発行のファクシミリ版、付属資料より / 請求記号 G18-140f)

第6曲：ザムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ

“二人のユダヤ人、太ったのとやせたの”とも言われている曲

(モスクワ、ムジカ社(Muzyka)1982年発行のファクシミリ版、付属資料より / 請求記号 G18-140f)

第8曲：カタコンベ(ローマの墓地)

(モスクワ、ムジカ社(Muzyka)1982年発行のファクシミリ版、付属資料より / 請求記号 G18-140f)

第9曲：にわとりの足の上に立つ小屋(バーバ・ヤガー)

(モスクワ、ムジカ社(Muzyka)1982年発行のファクシミリ版、付属資料より / 請求記号 G18-140f)

第10曲：ボガトウイーリの門(首都キエフにある)

(モスクワ、ムジカ社(Muzyka)1982年発行のファクシミリ版、付属資料より / 請求記号 G18-140f)

フィガロの結婚

モーツァルト

Le Nozze di Figaro

Mozart, Wolfgang Amadeus, 1756-1791

《フィガロの結婚》参考資料について

ルイ16世の反対を押し切り、1784年初演。革命に至る火種の一つとまで言われたボーマルシェの問題作、戯曲「狂おしき一日、あるいはフィガロの結婚」!

鋭敏な時代感覚の持ち主でもあったモーツァルトは、当時の売れっ子作家ダ・ポンテに台本を依頼し、検閲当局との軋轢等いくたの障害を乗り越えて、1786年5月1日、演劇上演としては禁止されている(フィガロの結婚)を、オペラとしてウィーンで初演します。そして、その年の暮れ、プラハで再演されるや、(フィガロの結婚)は大人気を博し、以降、超ロングな人気を保つオペラの大名作となりました。

本学大学院オペラも重要レパートリーとして、昭和35年以来、2~4年毎に上演し続けており、多くの先輩がこのオペラを学び、見事な舞台を披露して、本学を巣立ってゆかれました。(その初々しい熱演を図書館のビデオでご視聴ください。)

本学にとってもなじみの深い(フィガロの結婚)!!その第四幕を本学の誇る豪華演奏陣により楽しまれたあとは、展示棚に並んだ貴重資料等をご覧になったり、楽譜や図書、録音資料、映像資料、と言った資料を見たり、聴いたり、読んだりして、(フィガロの結婚)の世界を様々な角度から体感してみたいかがでしょうか?

展示資料

貴重資料

F1 "LE NOZZE DI FIGARO"

フランツ・シューベルトの兄であるフェルディナンドの編曲 ピアノスコア
Leipzig, Breitkopf & Härtel, [1840] 請求記号 MFC1196

展示箇所は、オペラ第4幕、伯爵が伯爵夫人に許しを請う場面からオペラ終幕まで p94
"Contessa perdono!"に相当する旋律部分辺りから、終幕に相当する辺りまで

F2 "Die Hochzeit des Figaro" 編曲者不明 ヴォーカルスコア

Köln, Simrock, [1802] 請求記号 M3-542

展示箇所は、オペラ第4幕、伯爵が伯爵夫人に許しを請う場面 p143
"Contessa perdono! 伯爵夫人よ、許してくれ!"

F3 "Le Nozze di Figaro" 編曲者不明 ヴォーカルスコア

Paris, Carli, [1807-1816] 請求記号 M3-542

展示箇所は、オペラ第4幕、伯爵が伯爵夫人に許しを請う場面 p217
"Contessa perdono! 伯爵夫人よ、許してくれ!"

F4 "La folle journée, ou Le mariage de Figaro"

Paris, Roualt, 1785 請求記号 M7-873

ボーマルシェの戯曲「狂おしき一日、あるいはフィガロの結婚」
5枚の銅版画が挿入されている。

F5 "La folle journée, ou Le mariage de Figaro"

Lyon, D après la Copie envoyée par l'Auteur, 1785 請求記号 M6-689

ボーマルシェの戯曲「狂おしき一日、あるいはフィガロの結婚」
展示箇所は、左に初演時の配役が、右に戯曲第1幕第1場
フィガロの最初のセリフ「29歩にたいして19歩」が右下に見える。

F6 "Costumes et annales de grands théâtres de Paris, Tome 1"

Paris, [1786] 請求記号 M6-667

展示箇所は戯曲第2幕第17場、伯爵夫人の小部屋から笑いながら現われるシュザンヌ。演じるコンタ嬢は初演時の配役で、衣装はその時のもの(バスク地方の刺繍のある白い服、頭にはトック帽をかぶる)

FJ "王政維新"『尋常小学唱歌. 第4学年 下』 佐々木吉三郎〔ほか〕共編

版訂正再版 東京：国定教科書共同販売所, 1906 p6 請求記号 C16-086

第1幕で、フィガロがケルビーノをからかって歌う「もう飛ばまいぞ、この蝶々」の旋律による唱歌。楽譜右肩に Mozart. の文字が見える。歌詞は、歌人、国文学者、佐々木信綱作。信綱は、短歌「ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲」や唱歌「夏は来ぬ」の作者として有名。この資料は、貴重書の扱いにはしていないが、慎重・丁寧な扱いを必要とする特別重要資料

楽譜

F7 "Le nozze di Figaro : a comic opera in four acts : K 492"

New York : E.F.Kalmus, [19--] (Kalmus miniature orchestra scores ; no. 419) 請求記号 E5-119、他

『モーツァルト旧全集』(Breitkopf & Härtel 発行)のリプリント版。カーマス社(E.F.Kalmus)、1900年代発行の版

展示箇所は、オペラ第4幕、伯爵が伯爵夫人に許しを請う場面 p422

「Contessa perdono! 伯爵夫人よ、許してくれ！」

F8 "Le nozze di figaro"

Kassel, Bärenreiter 1973 請求記号 A1-310

『モーツァルト新全集』(ベーレンライター社(Bärenreiter)発行)のシリーズ 2、作品群 5、第16巻、タイルバント 2: (フィガロの結婚) 第3幕、第4幕の巻

展示箇所は、オペラ第4幕、伯爵が伯爵夫人に許しを請う場面 p378

「Contessa perdono! 伯爵夫人よ、許してくれ！」

F9 『フィガロの結婚』 堀内敬三訳詞

東京：音楽之友社, [1962] (世界歌劇全集 ; 1) 請求記号 F1-329、他

あらすじ及び音楽冒頭部分の索引付き

展示箇所は、オペラ第4幕、伯爵が伯爵夫人に許しを請う場面 p357

「Contessa perdono! おくがた ひらに おゆるしくださいませ(伯爵夫人よ、許してくれ!)」

戯曲、オペラ対訳、解説書、研究書

- ボーマルシェ戯曲(日本語訳) -

F10 『フィガロの結婚. 改版』ボオマルシェ工作 ; 辰野隆訳

東京：岩波書店, 1976 (岩波文庫) 請求記号 J105-355、他

F11 『フィガロの結婚』

ピエール=オギュスタン・カロン・ド・ボーマルシェ著 ; 石井宏訳・解説

東京：新書館, 1998 (The Originals of great operas and ballets) 請求記号 J114-265

ボーマルシェの戯曲の新訳、「解説 フィガロ、あるいはボーマルシェ 石井宏」も、風雲児ボーマルシェの人物像が垣間見えて大変興味深い。

オペラ対訳

F12 "The marriage of Figaro" Libretto by Lorenzo Da Ponte
based on: Le mariage de Figaro / Beaumarchais.
English translation by Edward J. Dent

London : J. Calder ; New York : Riverrun Press, 1983 (Opera guide ; 17) 請求記号 C47-743

F13 『フィガロの結婚』 ロレンツォ・ダ・ポンテ台本 ; 小瀬村幸子訳 ; 高崎保男協力
東京 : 音楽之友社, 2001 (オペラ対訳ライブラリー) 請求記号 X0-945、他

解説書、研究書

F14 『オペラの楽しみ方完全ガイド : 豊富な舞台写真 & 29曲収録したCDでオペラの魅力と楽しさを体感!』 江森一夫編著

東京 : 池田書店, 2008 請求記号 J113-621

“フィガロの結婚 登場人物の喜怒哀楽が沸騰する「狂騒の一日」” p22~25
特に、主な登場人物のイラストが楽しい。

F15 『モーツァルト フィガロの結婚 : グラインドボーン・フェスティバル・オペラ』

東京 : 小学館, 2007 (魅惑のオペラ ; 第1巻) 請求記号 J114-126

DVD1枚と解説書からなる本。特に、解説の“(フィガロの結婚) あらすじと聴きどころ 石戸谷結子”が簡潔で楽しい。年譜付き

F16 『モーツァルト《フィガロの結婚》読解 : 暗闇のなかの共和国』 水林章〔著〕

東京 : みすず書房, 2007 請求記号 J111-522

展示箇所は、オペラ第4幕、伯爵が伯爵夫人に許しを請う場面の舞台写真 p262

展示パネル

義兄ヨーゼフ・ランゲが描いたモーツァルト(1789)

(モーツァルト全集第1巻 特集「モーツァルトの肖像画」海老沢敏 田辺秀樹 構成. 図1(解説共)より/請求記号 XD11172-11183)

戯曲第1幕、隠れていたシェリバン(オペラではケルビーノ)が見つかる場面

「こいつはきのうと同じだ」

(“La folle journée, ou Le mariage de Figaro”. Paris, Roualt, 1785より/請求記号 M7-873)

戯曲第2幕、伯爵夫人の小部屋からシェリバン(オペラではケルビーノ)が出てくる代わりにシュザンヌ(スザンナ)が現われて驚く伯爵

「殺してやるぞ、殺してやる!」。「ではどうぞこの悪たれ小姓めをお殺しくくださいませ」

(“La folle journée, ou Le mariage de Figaro”. Paris, Roualt, 1785より/請求記号 M7-873)

戯曲第3幕、裁判の場面

「汚点? そうだろうと思った」

(“La folle journée, ou Le mariage de Figaro”. Paris, Roualt, 1785より/請求記号 M7-873)

戯曲第4幕、シュザンヌ(オペラではスザンナ)が伯爵に密会のための手紙を渡す場面

「あなたは貞潔のまま夫の手にゆだねられるのです」

(“La folle journée, ou Le mariage de Figaro”. Paris, Roualt, 1785より/請求記号 M7-873)

戯曲第5幕、密会の相手が実は伯爵夫人だったと知り、伯爵は驚く

「おお、なんだこれは!」

(“La folle journée, ou Le mariage de Figaro”. Paris, Roualt, 1785より/請求記号 M7-873)

戯曲第2幕第17場、伯爵夫人の小部屋から笑いながら現われるシュザンヌ

(“Costumes et annales de grands théâtres de Paris, Tome 1”より/請求記号 M6-667)

《フィガロの結婚》が初演されたブルク劇場

(『モーツァルト フィガロの結婚 ; グラインドボーン・フェスティバル・オペラ』 p. 8 / 請求記号 J114-126)

《フィガロの結婚》の楽譜表紙 第3幕

1788年 彩色銅版画

(『モーツァルト フィガロの結婚 ; グラインドボーン・フェスティバル・オペラ』 p. 9 / 請求記号 J114-126)

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2009/4/6 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 三宅巖・二塚恵里